

事例から学ぶ！！！

“できる”を引き出す・拡げる支援

～その子に適した構造化を使って～

今回のテーマは…

ランニング

について



事例3 一人でランニングができない





走ることが嫌いではありませんが
ランニングの時間に、一人で走る
ことはできません…



チェックポイント

①本人はどのくらいの時間や距離を走り続けることができますか？
(本人のスキル)

②何を手掛かりにして、走ることを理解していますか？
(本人の理解方法)

アセスメントしてみましょう！



①ホールを2周くらいは走ることができます。
今年の目標は「1人でホールを3周走る」
にしています。

②走っている間は音楽をかけていますが、
聞いているのかは分かりません。
指導者の言葉かけや手を繋いで一緒に
走る支援をすることが多いです。



アセスメントの
結果から
考えられること！



走ることに対する手掛けかりと「終わり」に対する手掛けかりが少ない可能性が高い

- ・どこから(スタート), どこまで(ゴール), そしてどれだけ(周数等)走れば良いのかの手掛けかりが, 指導者だけになってしまっている。
→本人が分かる方法で「どこから・どこまで・どれだけ」の提示を
- ・「音楽の鳴っている間は走る」という手法はよく行われるが,特に自閉症の人にとっては, 分かりにくい場合が多い。むしろ,「何周走る」等の枠組みがある方が終わりが分かりやすい。
- ・本人はどんなものがあれば、走る意欲が湧いてくるのか?それを用いることで、走ることの構造化に活かせる。
→興味関心の活用を



「走ること」を構造化する

- ・スタートとゴールを視覚的に明確にする
→例:スタートとゴールラインの設定・ゴールでのハイタッチ
- ・コースを視覚的に明確にする
→例:一緒に走るのではなく, 4つのコーナーに指導者が立って子どもの気を引く・コーナーごとにシールを貼る
- ・どれだけ走るかを視覚的に明確にする
→例:手に付けたリングを, 1周ごとにケースに入れる

※その子なりの「自立した走り」が目標。目標達成の子から自立して走り, 支援の必要な子どもに対応していく。



興味関心を活かして走る意欲付けを

<例>

- ・1周するごとに本人が好きなおもちゃに触れられる
- ・本人が好きなキャラクターを指導者の背中に貼り, それを追いかけるようにする
- ・本人が好きな音楽を聞きながら走る
- ・周回するごとに, パズルが組み立てられる(完成したら終了)

※興味関心と走ることに対する視覚的な見通しの提示
も重要！



- ・自立してランニングを行うためには、
「どこから・どこまで・どれだけ(周数等)」の
視覚的な提示が必要！
- ・興味関心を上手く活用する
ことで走り続ける意欲に繋がる。





皆さんいかがでしたか？
「走ること」にも構造化があるのですね！！
上手く構造化することで、子ども達が存分に
走る活動に取り組めるようにしていきたい
ですね。

次回は活動や気持ちの「待つこと」について、
お伝えいたします！お楽しみに♪